11 教員組織

進捗状況報告

2003年度に設定した目標に関する進捗状況は以下の通りである。①「適切な教職員の配置」については、とくに問題なく推移している。②「任期制も含めた多様な教員採用形態の検討」については、社会学研究科を中心とする21世紀ＣＯＥプログラム（2003年度採択）の実施に伴い2004年度から２名の「ＣＯＥ教育支援任期制教員」を採用している。その他、特段の検討は行なわれていない。③「非常勤講師および教育・研究補助者の適正運用」については、大学院学生が学部授業を補佐する「ティーチング・アシスタント」制度が定着してきた。その他、特段の検討は行われていない。

【11.01教員組織】
【11.02教育研究支援職員】
社会学部の教員組織のあり方については、社会福祉学科の分離独立（2008年度）にともなう新たな学部再編（2009年度予定）の準備を進めるなかで、大学の要員計画なども参考にしながら検討を行っている。

【11.03教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続】
【11.04教育研究活動の評価】
「教員の採用・昇格に関する基準および運用の明確化」に関しては、2007年度から全学的に新たな職階制（教授-准教授-助教）が導入されたことに伴い、社会学部においても新たな内規を定め、「昇任に関する任用審査委員会の設置」「研究業績の点数換算」「教授ならびに准教授の選考基準」などの明確化を図っている。「教育研究業績の公表システムの向上」については、「教育研究業績データベース」の更新率を向上させるべく、学部長から毎年、各教員に対する呼びかけを行っている。

社会福祉学科では、現在『リエゾン教員』という機能を複数非常勤講師に担ってもらい、一人10名以下の担当で、現場実習前、現場実習巡回、実習後教育を展開し、その充実をさらに高めるよう試みている。実習指導室との密な有機的連携と相談体制をもとに、きめ細かい学生への対応を実施できるよう、検討している。

学内第三者評価

「教員の採用・昇格に関する基準および運用の明確化」に関して、2007年度から新たな内規を定め、「昇任に関する任用審査委員会の設置」「研究業績の点数換算」「教授ならびに准教授の選考基準」などを明確化したことについては評価できる。
「教育研究業績データベース」による業績の公開は、助成金を受ける公共性の高い高等教育機関として社会に対する責任であり、各自データの更新は教員の義務であることを明確に認識する必要がある。